

現代における外国人の目から見た遍路

ディビット モートン

はじめ — 旅に出ること

江戸時代から、旅に出ることが一般の人の間でも可能になって、多くの人が京都から江戸まで、すなわち東海道を旅しました。浅井了井が「東海道名所記」(1658)に次のことを書きました。

“鄙の永路を行過るには、物うき事。うれしき事。はらのたつこと、おもしろき事。
あはれなること、おそろしき事。あぶなき事。をかしきこと。とりどりさまざま也。”

確かに旅に出ると、様々なことを経験することができます。しかし、この文書は日本を旅している日本人が書いたものです。日本語を読むことも話すこともできない外国人が日本を旅しているのを想像してみてください。きっと、もっと嬉しいこと、腹の立つこと、面白いこと、恐ろしいこと、おかしいことなどを経験していると思いませんか。この報告は四国遍路を経験した現代外国人についての調査で、彼らにとって四国遍路の魅力は何か、外国語で書いてある資料の紹介、四国遍路についての感想などを記しました。

現代の外国人遍路の人数や国籍

香川県の87番札所長尾寺と88番札所大窪寺の間に「おへんろ交流サロン」という施設があります。ここは四国遍路に関しての資料をたくさん展示していて、毎年、そこを訪れる「へんろ資料展示見学者数調」を出しています。四国遍路に興味がある、または遍路を経験した外国人の人数や国籍を調べてみると、この3年間で外国人の人数は:

平成14年10月1日から平成15年9月30日：30名

平成15年10月1日から平成16年9月30日：62名

平成16年10月1日から平成17年9月15日：40名

という結果でした。また、そこにある「国際納札箱」を見ますと、そこを訪れた外国人の国別が分かります。平成15年5月から平成17年8月の間：「17・9・20日時点」

| | | | | | |
|---------|------|------|-----|--------|-----|
| 国別：アメリカ | 12枚； | カナダ | 7枚； | 韓国 | 3枚； |
| 中国 | 3枚； | イギリス | 2枚； | インドネシア | 2枚； |
| オーストリア | 1枚； | スイス | 1枚； | ドイツ | 1枚； |
| スペイン | 1枚； | オランダ | 1枚； | タイ | 1枚 |

合計が35枚で、12カ国から来ていました。しかし、この数字は実際に四国遍路をした人の正確な数字は表わしていません。2003年の夏から2005年の秋までの間に、私と会ったり、連絡をとった外国人の数は20人です。彼らはカナダ、アメリカ、ドイツ、フランス、メキシコ、オランダからきました。その内、5人が女性、15人が男性です。年齢は20代から60代です。日本語が話せる割合は1/3ぐらいで、四国遍路をする動機は様々でした。また、区切りをする人もいるし、通し打ちをする人もいます。ほとんどの男性が野宿しています。その内2人は新聞や雑誌の取材のために来たので、彼等は宿を使いました。

外国語で書いてある四国遍路情報源

四国遍路に興味がある外国人は年々増えていると感じますが、彼らはどこから四国遍路についての情報を得るのでしょうか？一つは本や論文、そして新聞です。そのいくつかをここで紹介します。

- 1) Oliver Statler の Japanese Pilgrimage (日本巡礼) (1983) の本が四国遍路について英語で書いてある本ではもっとも知られています。彼が1969と1971に四国遍路をして、彼の経験や弘法大師や遍路の歴史を綴った作品です。
- 2) Awa Pilgrimage (阿波遍路) (1983) は徳島県にある23ヶ所のお寺と遍路歴史などを英語で書いてあります。
- 3) Don Weiss が書いた Echoes of Incense (線香の反響) (1994) があります。彼が1992-3年の冬に一人で四国遍路を逆打ちして、1993年の春に奥さんと順打ちしました。この本は彼の旅行記です。
- 4) アメリカのカリフォルニア州にある高野山寺の住職さん、Miyata Taisen、は「A Henro Pilgrimage Guide to the 88 Temples of Shikoku Island Japan」(1996) を書きました。これは本尊の説明、遍路の心得、各の札所の歴史や遍路用語解説などが書いてあります。
- 5) カナダの新聞記者をしている Robert Sibley が四国遍路を終わってからカナダに帰って、半年の間毎週、彼の経験を新聞に載せました。

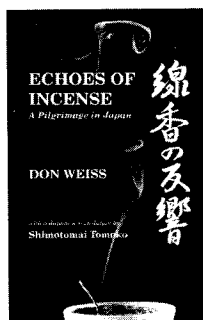
1)



2)



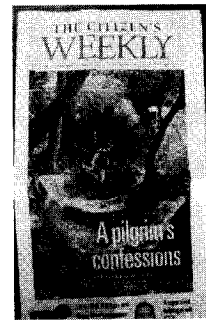
3)



4)



5)



また、色々な人が四国遍路について記事、本、論文などを書いています。例えば、イギリスの Ian Reader 教授は約20年間、四国遍路について様々な本を書いています。フランス人の Nathalie Kouame は博士論文のテーマとしてフランス語で江戸時代のお遍路状況について書きました。ドイツの Maren Ehlers はドイツ語での修士論文として乞食遍路について書きました。オランダの Herry van der Veere はオランダ語で遍路について研究して発表しています。カナダ人の Susan Tennant と Fiona MacGregor と David Moreton、そしてカナダ在住の Hiroshi (Tanaka) Shimazaki は英語で論文、記事、本などを出しています。しかし、どれも四国遍路をするための実用的な情報については書いてありません。実用的な情報を得るために一番い

い源はインターネットです。ネット上に、英語で書いてある3つのホームページは外国人遍路のために役立ちます。

1) <http://users.lac.uic.edu/~dturk/shikoku.html>

1999年にアメリカの David Turkington という男性が四国遍路をしました。彼が日本に来る前に、あるインターネットプロバイダーのメールアドレスを開いて、歩いている間に、持っているコンピューターを公衆電話に繋げ、彼の日記を数日ごとにインターネットに入れました。そして、アメリカに帰ってから遍路についてのホームページを拡大して、色々な情報を増やしました。そこには「総合的な情報、計画、準備、歩く、お寺の情報、出版物、1999年と2005年の巡礼、その他」という項目で情報を記載しています。2005年の春に彼がまた四国にきましたが、6年前と違って、今回は通し打ちをする時間がなくて徳島県にある23ヶ所だけを歩きました。それで、これから毎年の春に来日して、次の県を歩くという計画を立てています。今年も彼がコンピューターを持ってきて、前と同じことをしようと考えていたのですが、今回一番びっくりしたのは、公衆電話の数が1999年と比べてかなり減っていることでした。

2) <http://echoes.bluemandala.com/>

これは先に紹介した Don Weiss が作ったホームページです。そこに英語版の「線香の反響」があって、実用的な情報が載っています。例えば、四国遍路をするためのコストや真言仏教についての説明や、役に立つ日本語辞典などです。

3) <http://www.kushima.com/henro/>

日本人のために串間博さんが作った「掬水へんろ館」というサイトが一番情報が豊富なホームページだと思います。また、串間さんはニューズレターを月1回か2回、興味がある人に送信しています。四国遍路についての英語で書いてあるホームページがあまりに少ないため、私は彼に連絡をして一部を英訳しました。

四国遍路の魅力

どうして外国人が四国遍路をしようと思うのでしょうか？確かに四国遍路をすることは魅力があります。調査した外国人は自由さ、お接待、コストが大きな魅力だと言っています。

1) 自由さというのは、宗教、国籍、やり方、または服装の規定を強制されないということです。四国遍路は誰でも平等に受け入れてくれます。これは他の巡礼と大きな違いです。四国遍路の場合はこうしなさいとか、こうするべきという規定がありませんので、誰でも自由に参加できます。数人の場合、始めは普段着で歩いてお経等を読まなかったのですが、途中で心境や考えた方が変わって、白衣を着るようになり、お経を読むようになったということです。

2) お接待。これほどの独特な風習は世界でみても類をみないものです。その上、300年以上前の風習が現代においても根強く続いていることは、外国人遍路を驚かせます。ひとりの外国人が“ほとんどのお接待は他の歩き遍路から頂いた”と言っています。もうひとりは“日本人の倍の食べ物の「お接待」を受けた”と言っていました。この人は初めて独りで遍路に出かけましたが、途中彼と同じぐらいの年(20代)の日本人と会って、彼と歩くことになりました。地元の人からお接待を頂いたときに、ときどきそのアメリカ人は日

本人より倍のお接待量を貰いました。きっと、その地元の人が外国人に“遠くから来てくれた、ありがとう”という気持ちを表したかったのでしょう。もうひとり“四国の人々が色々な面で親切であることに驚きました”と語っています。これは、どの外国人遍路も思っていることでしょう。

3) コスト。旅に出る時、家から目的までの往復旅費、宿泊代、食事、雑費などが必要になります。例えば、もし四国遍路をするために40日かかった場合、宿泊代だけで約240,000円になって、食事代が40,000円（一日・1,000円という計算）、雑費（白衣、菅笠、納経帖、リュック）。それに渡航費が、アメリカやヨーロッパの場合、50,000円から150,000円かかりますので、宿泊代を節約するため多くの外国人が野宿します。一人は四国にきて“無料で泊まれる所が多い”と言いました。確かに四国の場合、善根宿、通宿、遍路宿、公園、バス亭などの所がありますので、遍路は色々な選択があります。また、本州と違って“お寺の拝観料がない、本州より宿や食事が安い”という意見もありました。

四国遍路をした外国人の感想コメント

この数年に私が出会った外国人遍路に、四国遍路についての感想や意見を調査し、以下の回答を得ることができました。

1. よかった点

1. 外国人遍路に対して、日本人（住民や他の遍路）が非常に寛大で、想像以上に親切だったことに驚いた。
2. 遍路道に道標があるので、日本語が話せない外国人にも分かりやすかった。
3. お寺が商業的な雰囲気である以外、四国遍路の全てが好きだった。四国は美しいし、人々はとても友好的で、食べ物も美味しい。
4. 山道を歩くことが好き。田舎にある小さいお寺が好き。田舎の人々の方がより親切で友好的そうだった。
5. 無料宿泊先のリストは大変役に立った。
6. 野宿をすることによって、数多くの違う遍路と会ったり、話すことができた。
7. 女性の旅人でも安全に旅行できると感じた。北アメリカではできない。
8. 松山市の色々なお寺にあった英語の説明がよかった。

よかった点についてのコメント

2番はよくなかった点の1番と矛盾しています。それはなぜでしょうか？何人からの意見では、ある程度日本語を知っていたほうが良いということでした。スペインの巡礼の場合も、ある程度スペイン語を話せないと旅はとても大変だと言われています。四国やスペインの巡礼道は小さな村や町を通ります。当然、そこに住んでいる住民は英語を話せないで、現地の言葉を話せないと不自由な点が多くなります。

4番の「田舎の人々の方がより親切で。。。」これは確かにどこに行っても同じことが言えると思います。都会では生活のペースが田舎より速いし、時間のゆとりがなさそうだし、近所の人と付き合いが希薄です。四国遍路は徳島、高知、松山、高松などの市街地をぬけると小さな町や村ばかりを通ります。ある人が言ったのは、四国の北方面、すなわち松山から高松までは、あまりお接待をいただかなかったそうです。

5番はガイドブックなどには載っていない遍路宿リストのことです。私は2003年の秋に、ある外国人からこのリストをもらい英語に訳して David Turkington のホームページに載せました。そのリストには善根宿、通宿などが載っていますので、野宿をするつもり外国人がこれを使って寝る場所を探します。

6番の意味は宿に泊まる方が孤独で、人とあまり話す機会がないということです。しかし、日本語をある程度話せないと、他の遍路と会話をするのが難しいと思います。たまに英語を話す日本人遍路はいますが、本当にわずかです。

7番：ある外国人女性が四国遍路の途中、よく住民の人や他の遍路から宿泊代を頂いたそうです。やはり四国の場合でも、女性のひとり旅の安全性を心配する人がたくさんいます。このコメントを言った女性は「北アメリカではだいたいの方が、女性の旅人にさえ助けの手を差し伸べないのです。しかし日本の場合、女性は、女性の旅人をみると、助けようとしてくれます。」と述べていました。

8番：松山市にあるお寺では、英語と日本語の案内を見ることができます。これは松山教育委員会が作ったもので、数多くの外国人からこういうコメントを聞きました。他の県ではこういう外国語の案内が存在しないのです。どうしてでしょうか？ある外国人は「松山は観光地で外国の観光客がたくさんが来るので、英語の案内が多いのでは」といいました。しかし、私の個人的な意見ですが、外国人に日本の歴史や文化を知ってもらうためには、特別な観光地に限らず、できるだけ外国語で書いてある案内が必要ではないでしょうか。

2. 良くなかった点

1. 日本語が分からなかったこと。ある程度日本語を分らないと遍路はとてつきつ。
2. 英語の地図や宿の情報が存在しない。
3. 四国遍路の商業主義：1番札所霊山寺の商業本位な点が目立った。
4. 歩き遍路のための道標の少なさ。
5. 国道、コンクリート、アスファルトを歩く時間が多すぎる。
6. 大きなお寺に限って、歩き遍路に休憩所を提供しなかったり、トイレが汚れていたり、バス遍路を優遇するような所が気に入らなかった。
7. 毎晩どこで寝るかを考えることがストレスになった。(野宿、宿)
8. いくつかのお寺の納経所で働いている従業員の無愛想さ。
9. 遍路を悪用しようとする人々。
10. 足のマメが一番の苦労だった。
11. どうして四国遍路のことが海外や日本の都市部で宣伝してない？

よくなった点のついでのコメント

2番：残念ながらこれが現実です。歩き遍路のために一番いい地図は、へんろみち保存協力が出版した「四国遍路ひとり歩き同行二人」です。しかし、これはすべて日本語で書いてあります。外国人のためにDavid Turkingtonは、そこの凡例を英訳してホームページに載せています。

4番：これはよく聞きます。また、あまり必要ではない時に道標が多すぎて、必要な時に全然見当たらないのです。先に述べたへんろみち保存協力のメンバーと、その協会を担当している宮崎建樹さんのお陰で木や石の道標が設置されていますが、それを維持するための人員が足りないようです。たまに電柱に「遍路道」のシールを見ますが、これもあったりなかったりしますので、迷いやすいのが現状です。一方ある人の考えは、道標がよく分かったら巡礼中住民と話す機会が減るし、巡礼が修行であるという意味がなくなるだろうということでした。

5番：これのせいで、10番が起こります。スペインや世界中の地の巡礼道を歩いた外国人にとって、この点に最も戸惑っています。ある人が言うのは、四国の場合はアスファルトを歩く割合は90%で、スペインの

場合はその逆だそうです。数ヶ所では、旧遍路道が復元していますが、四国遍路が文化遺産や世界遺産になるために国道などを歩く割合を変えないといけないと思います。

7番の原因は日本語を話せないことです。宿の予約もできず、野宿の場合は、その場所で寝てもいいという許可を得ることもできないからです。

9番。残念ながら四国にもこういう人がいます。しかし、いまのところ外国人から聞いたケースは二つだけです。どちらの場合も善根宿をやっている人です。一つは徳島県にあって、もう一つは高知県にあります。どうしてこういう人たちは遍路を悪用しようとするのでしょうか。

11番。外国人は日本に来る前に色々な所から情報を得ようとしています。その一つは海外にある日本観光協会ですが、何人の外国人から聞いたのは、そこで働いて人たちは四国遍路についてはまったく知らないようです。また、日本の都市部にある観光協会でも四国遍路についての情報をまったく得られません。何年前から「四国八十八ヶ所を世界遺産にしましょう」という運動が始まったのですが、いまのところ四国遍路は世界でほとんど知られていません。

3. まとめ

1. 多くのことを学ぶ日々だった。特に真の苦勞と苦難を学んだように思う。
2. 四国遍路の経験すべては、とてもよかった。
3. 私の巡礼が冒険でいっばいな、人生を変える経験だった。
4. 言葉で表せない驚嘆な経験だった。
5. 私にとって素晴らしい経験だった。
6. 四国88ヶ所巡りのための歴史、文化や宗教を説明するもっと良いガイドブックが存在したらいいなと思う。ある地域の歴史、または、お寺の建築を説明するガイドがあったらいいなと何回も思った。
7. 外国人遍路の少ない数にびっくりした。また、四国遍路を歩く日本人にもびっくりした。

まとめについてのコメント

様々な外国人が遍路に参加します。例えば、日本が初めての人、日本語が分からない人、世界中の色々な所でハイキングなどの経験が豊富な人、仏教に熱心な人、研究のためにくる人、巡礼に興味がある人など。私と会った外国人は遍路中、色々な所で苦勞しましたが、全員が四国遍路をしてよかったと言います。四国遍路の経験が、本人にとっても強い影響を与えたようです。数人が本や記事、旅行記を書き、数多くの人がインターネットに文章や写真で自分の遍路経験を載せています。

しかし、6番という意見を持つ外国人は非常に多いです。ある人はお寺がこういうガイドブックや英語の案内に、力や資本を入れた方がいいと言います。別の人は市、県、または国がこういうものを作った方がいいと言います。現在外国語の情報は、わずかの外国人が個人的に作っているものです。

7番に関して：1990年代から「歩き遍路」という用語を使うことになりましたが、四国遍路をする原型の形が、歩くことです。これから、「歩き遍路」の人数を増やすために、安全な道を作ったり、復元したり、保存することが必要になると思います。スペインの巡礼のデータを見ますと、歩く人が70%で、自転車では30%。四国遍路の場合、毎年、15-20万人が参加と言われていますが、その内の何千人、0.02%だけが歩きなのです！

四国遍路についての調査

四国遍路に興味がある人、また、実際参加する外国人の人数が年々増えていると感じます。少しずつですが、世界に四国遍路のことが広がっていますので、外国人遍路に次の質問をしました：

「外国人に四国遍路をもっと広く宣伝したほうがいい、または、外国人のために四国遍路についての情報を増やした方がいいと思いますか？YESと思うならどうやって？」

その結果は意外でした。

結果： YES - 6人； NO - 7人； 未定（両方） - 3人

YESと答えた人は「インターネット、雑誌、政府が作った報告、たくさんの情報がほしい」と言いました。NOと答えた人は「四国遍路は宗教（仏教）に興味ある人だけにしてほしい。観光客やバックパッカーは来てほしくない。情報は十分ある。テーマパークになってほしくない」また、未定（YESとNOと思った人）の場合、YESはインターネット、四国遍路についての本がもっと必要、交流や国際理解が増えると答えを出しましたが、NOの理由は：言語の問題、人が多くなったらその影響が心配、などでした。

おわりに

四国遍路に興味がある人が年々増えていることは事実です。私は一年間で約8人の外国人と会って一番札所霊山寺に連れていきました。また、その人が巡礼を終えたらできるだけもう一度会って、感想などを聞きます。徳島文理大学の姉妹校の学生が香港や韓国、カナダから来た時には、かならず遍路講座をして数カ所の寺に連れていきます。カナダの学校の場合、1日か2日の遍路体験日をつくりました。四国遍路のことについて知っている外国人は増えていますが、情報量があまり増えていません。特に、実際に遍路をするための情報です。しかし、調査の結果を見ますと、これからの遍路の宣伝ということに関して意見が真二つに分かれています。情報が十分ある、興味がある人は自分で探す、という意見に反して、インターネットや広告や本などを通じてもっと宣伝した方がいい、と思う人がいます。

旅中で経験することは浅井了意が言った通りです。苦労しながら旅をすることが自分のためにプラスになりますし、忘れられない経験になります。今、四国遍路をする外国人は日本が初めて、日本語が話せない、また、情報が足りないという現状にもかかわらず、遍路という旅をするという決心をします。もし四国遍路をもっと世界に宣伝して、道標を増やし、外国語で書いてある情報を作ったら、果たして浅井さんが言ったことを経験しなくなるのでしょうか。これからは外国人（世界）と四国遍路の関係や、将来を考えることが必要だと思います。